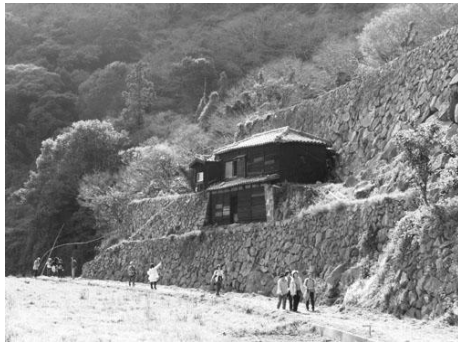


まちの宝物 (6)

# 祝島・平さんの棚田

今、全国各地から多くの人が訪れている注目のスポットがあります。祝島の急斜面に作られた棚田、平さんの棚田です。日本の棚田の中では最大級と言われる巨大な石垣が、伊予灘を見下ろす山の中腹に築かれています。



平さんの棚田の石垣と山小屋

現在、この棚田でお米を作っているのは、平萬次（たいらまじ）さん。萬次さんは現在79歳、50年以上この棚田でお米作りを続けています。高さが最大で9mという巨大な石垣によって支えられている棚田を築いたのは、萬次さんの祖父・亀次郎さん。食糧難の時代、子や孫が食べ物に困らないようにと、大正時代の終わり頃から約30年かけてコツコツと石垣を築いたそうです。まだ今のような重機も無い時代、大きいものでは直径が1m以上もある大きな石を、テコを使って人力で一つ一つ動かしていく、気が遠くなるような



人と比べると、一つ一つの石の大きさがよくわかります



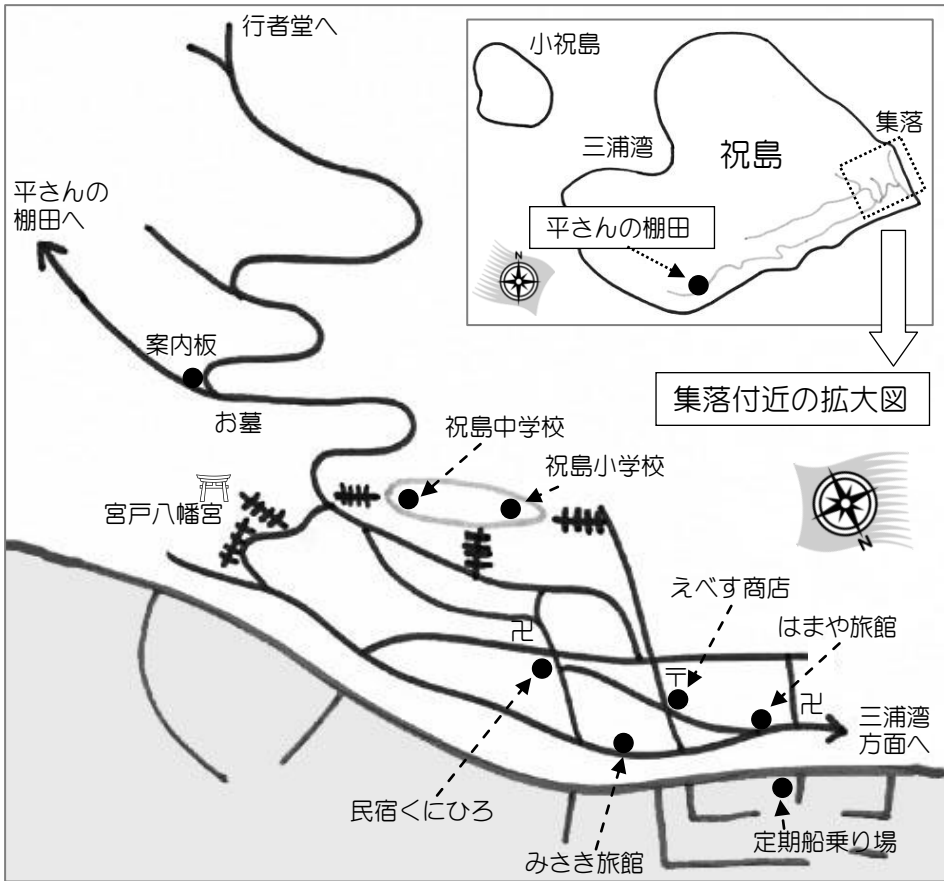
作業を亀次郎さんと家族だけでやり続けました。萬次さんも中学生の頃から、その作業を手伝っていたそうです。



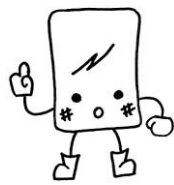
多くの観光客が訪れています

数年前に新聞で棚田が紹介されたのがきっかけで、その後、テレビや映画にも登場して、全国的に知られるようになりました。今では多く人が見学に来られるようになり、萬次さんも、訪ねて来られた方とお話できるのを楽しみにされているとのこと。

## ◎平さんの棚田への行き方



祝島港（定期船乗り場）から平さんの棚田までは、およそ4km。徒歩で片道1時間ちょっとかかります。祝島中学校の横の坂道を登っていき、お墓の所の別れ道を案内板の表示に従って、まっすぐ進みます。あとは道なりに進んでいけばOKです。棚田へ続く道は、祝島から海を臨む絶景が続きます。道の両脇のびわ畑や、眼下に広がる瀬戸内海の風景を楽しみながら、のんびりと歩いて行くのがおすすめです。天気の良い日には、遠く四国の佐田岬や、九州の国東半島も眺めることができます。



所どころに案内板があります

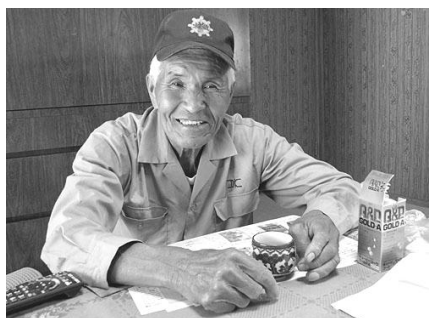


びわ畑やみかん畑の横を歩きます



眼下には美しい瀬戸内海が広がっています

## ◎平さんからのメッセージ



やさしい笑顔でお話しされる平萬次さん

萬次さんは、棚田を訪ねてくる人たちに、「この何も無い原野に棚田を作ろうと発想し、それを貫いたおじいさんの信念はすごいと思う。人間はやる気さえあれば何でもできる。この棚田を見た若い人たちには、『がんばる力』を感じて欲しい。」といつも話しされておられるそうです。

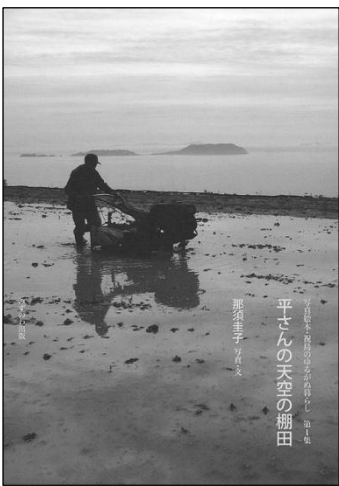


祖父・亀次郎さんの言葉を後世に残すため、萬次さんはその言葉を石に刻んだ。

「今日もまた つもりし雪をかきわけて 子孫のために ほるぞうれしき 亀次郎」

## ◎写真絵本『平さんの天空の棚田』

平さんの棚田や、暮らしのびりを紹介する写真絵本が出版されました。ぜひご覧下さい。(みずのわ出版 電話 0820-77-2451)



『平さんの天空の棚田』写真絵本・祝島のゆるがぬ暮らし 第1集 (写真・文 那須圭子)

◎「わいわいタイムス」12月号は12月2日(日)発行予定です。